つばきグループのマネジメント体制

「形（制度づくり）」よりも「効果（実際の運営）」を重視した経営管理体制の下、
つばきグループは「グローバル・ベスト」を実現していきます。

取締役・監査役および執行役員

福永　喬
代表取締役会長兼社長

金平　誠
取締役　専務執行役員
開発・技術センター長／MOT推進担当
つばきテクノスクール担当／技師長／京田辺工場長

市川　直
取締役　専務執行役員
チェーン・精機部門統括
チェーン・精機部門統括チェーン事業部長
株式会社ツバキエマソン代表取締役社長
グローバル・ベスト推進担当
京都工場長／兵庫工場長

藤原　透
取締役　常務執行役員
自動車部品事業部長
グローバル・ベスト推進担当／埼玉工場長

三木　信彦
取締役　常務執行役員
CSR推進センター長
CSR推進センター内部監査室長

長　勇
取締役　常務執行役員
経営企画センター長／大阪支社長

宮本　民男
取締役　執行役員
マテハン事業部長
マテハン事業部営業統括担当
グローバル・ベスト推進担当

矢嶋　英敏
社外取締役

常勤監査役
竹村　雅弘
宮本　治郎

社外監査役
徳田　勝
渡邊　隆文

専務執行役員
宮﨑　良信

常務執行役員
鈴木　恭
近藤　正人
北山　佳計

上席執行役員
馬場　二郎

執行役員
椿本　茂也
酒井　俊光
高橋　利夫
三尾　克彦
春名　秀昭
牛田　雅也

（2008年8月28日現在）

コーポレート・ガバナンス

「変化の激しい時代」への対応は？

「小さな意思決定機関」と「円滑な業務執行」

経済のグローバル化や技術革新がますます進展する一方で、為替相場や原油・原材料価格は極めて不安定なものになっています。このように目まぐるしく変化する外部環境の中で、企業を持続的に成長させていくには、迅速かつ的確な「意思決定・戦略立案」と「円滑な業務執行」が不可欠となります。

このような考えの下、当社グループでは、取締役会を８名*の比較的小さな体制とすることで、著しい環境変化に機敏に対応しています。一方で、それぞれの事業分野で優れた知見を持った17名*の執行役員が、専門性や特殊性を生かして円滑に業務を執行しています。

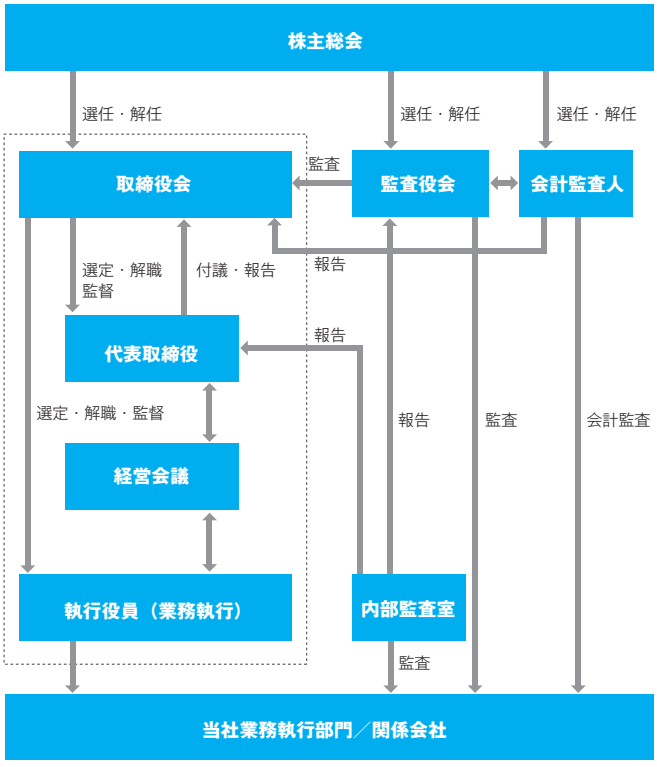
＊執行役員17名のうち６名が取締役を兼ねています。

経営の適切な「監視」と「柔軟性」・「透明性」をどう実現する？

積極的・自主的に「社外の力」を活用

取締役のうちの１名を社外取締役、監査役（４名）のうちの２名を社外監査役として、中立性・客観性を高めた経営と経営の監視を実現しています。また資本市場に対しては、当社制定のディスクロージャーポリシーに基づく適時・適切な情報開示を通して「経営の透明性」を確保する一方で、単なる情報提供にとどまらず、積極的に経営に対する資本市場からのフィードバックを取り入れる、「双方向コミュニケーション」を推進しています。

年２回の決算・経営戦略説明会では、当社側からのプレゼンテーションの後に、投資家やアナリストからの質疑応答や意見交換の時間を十分に設けるほか、工場見学会・スモールミーティングなどを通して、当社グループの役員や幹部職員が直接コミュニケーションできる機会を増やしています。また株主総会終了後に経営計画説明会および株主懇談会を開催。株主に対して当社側からの一方的な報告や説明を行うだけでなく、貴重なご意見も十分にいただきながら、直接的な対話ができるよう運営しています。



コーポレート・ガバナンス体制図

つばきグループの資本市場向けへの取り組み実例（2007年度実績）	
決算・経営戦略説明会	２回実施。会長、社長および各事業部門のトップが出席
海外ロードショー	２回実施。社長自らがプレゼンテーション
工場見学会・スモールミーティング	工場見学会３回実施（埼玉および京田辺工場）。スモールミーティング２回実施
個人投資家向けIRフェアへの出展	２回実施。日経IRフェアなどへの出展
東京IR室の臨時開設	４回実施。IR担当者による在京の投資家・アナリストへの業況説明

コンプライアンス・内部統制

企業不祥事の未然防止への有効策は？

徹底した教育・研修はもちろん、何よりも全従業員に「企業経営マインド」を持たせることが重要

当社グループでは、2002年12月に「倫理綱領」と「倫理心得」を、2003年9月には「リスクマネジメント基本方針」を、さらに2005年4月には「個人情報取扱規定」と「情報機器の社外持ち出しに関するガイドライン（2005年12月に改定強化）」を制定しました。

もちろんこれらのガイドラインは、全従業員に「浸透」し、「徹底」されてこそ意味があります。当社グループでは、定期的な階層別社内研修に加えて、毎年2月を「企業倫理強化月間」と定めて、集中的な教育を国内外グループ全従業員に対して実施することで、倫理綱領を周知徹底させています。

また研修・教育の強化以上に、全従業員に企業経営の意識を持たせることが重要と考えています。CSR（企業の社会的責任）の履行が、いかに企業の持続的成長にとって重要かという「根幹部分」を深く理解してこそ、自主性と積極性が生まれてくるからです。

法令・社内規定違反が起きたと感じた場合は？

「倫理ヘルプライン」を設置、通報や相談しやすい仕組みを整えています

当社グループでは、法令違反や社内規定違反を実際に発見したり、違反の疑いがあると感じた場合、業務遂行上で判断に迷う場合は、通報や相談をしやすいように、社内および社外の2つの受付窓口からなる「倫理ヘルプライン」を設けています。

つばきグループのCSR経営

各企業がCSR経営に対して積極的に取り組んでいる中、つばきグループの最大の特長は、資本市場、社会、従業員などすべてのステークホルダーへの取り組みを「横断的」かつ「統合的」に推進できる組織として、「CSR推進センター」（2006年4月設置）を持っていることです。これは法令順守、環境保全、情報開示、社会貢献などの活動を、統一的に実施していくのに有効です。

つばきグループは、様々なステークホルダーの皆様からいただくご支持をひとつに統合し、「持続的成長」の実現につなげていきます。

三木　信彦
CSR推進センター長
（取締役　常務執行役員）

つばきミッション・ステートメント

つばきグループは、1999年4月にミッション・ステートメントを制定しました。「グローバル・ベストの推進」を合言葉に、グループの総合力を結集して企業価値の最大化に取り組んでいます。ビジネス環境は変化しても、顧客のために尽くすという基本姿勢とモノづくりへのこだわりは不変です。全従業員がこの思いを常に持ち続けられるよう小冊子を携帯しています。

つばきミッション・ステートメント（中国語・英語・日本語）

環境経営、その他のCSR活動

本業を通じての「環境」への対応は？

生産活動での「環境保全」と、商品競争力の向上に直結する「環境配慮商品」の開発には、全事業部門が積極的に取り組んでいます。

環境配慮商品として、例えば「ベアリングローラコンベヤチェーン・無給油シリーズ」は、ローラとブシュ間のスチール製コロを樹脂に変更することにより、潤滑油が不要で摩耗性が低く、消費電力が小さな商品を実現しました。また、使用済みのプラスチックチェーンをリサイクル原材料として回収、同一品質の商品に再生した「つばきリサイクルプラチェーン」は、産業機械部品としては日本で初の「エコリーフ環境ラベル」を取得しています。

生産活動での環境保全対応は？

環境マネジメントシステムを構築し、省エネ、リサイクルなどを柱にした取り組みを行っています。

つばきグループでは、「つばきグループ環境委員会」を定期的に開催しながら、環境マネジメントを推進しています。すでに国内13事業所および海外6事業所がISO14001の認証を取得。各事業所では、社内認定された環境内部監査員による内部監査が定期的に行われ、環境マネジメントシステムの効果的な運用状況や、法令・規定などの順守状況についての確認、さらには改善への提言などが行われています。

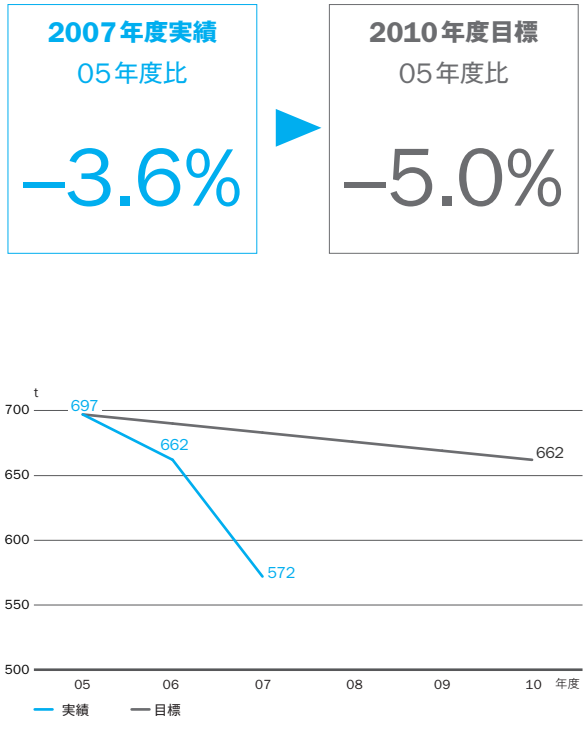
工場サイトにおけるCO_2削減への取り組みの実例としては、(1)埼玉工場におけるボイラー燃料の重油から都市ガスへの切り替え、(2)京田辺工場におけるコジェネレーションシステムの導入などが挙げられます。

環境保全以外の社会貢献活動は？

地域社会との信頼関係の醸成に向けて幅広い活動を行っています。

京田辺工場では、地元の高校に技能者を派遣し、機械加工の指導や教育などを行っています。また夏休みには、地域住民を親子で工場に招待。チェーンの組立体験など、つばきならではのプログラムを盛り込み、実際に商品に触れてもらうことで、子供たちにモノづくりへの関心を深めていただいています。

生ゴミ堆肥化とエコファーム

京田辺工場では、社員食堂から出る生ゴミを処理機で堆肥化、それを工場敷地内のエコファームで使用しています。社内に開放されたエコファームでは、土いじりに興味のある従業員が休み時間等を利用して、慣れない手つきで野菜作りに励んでいます。資源循環と環境意識の高揚、福利厚生の両面で貢献しています。

つばきグループ　CO_2排出原単位の実績と目標ライン